ご自由にお持ち下さい

済生会だより ならしの

千葉県済生会習志野病院 院外広報誌

No.38 2016.春号

Contents

- 脳卒中センターの紹介
- 患者相談窓口開設の紹介
- 手術棟増築工事の進捗状況
- 事前採血
- 糖尿病講座のご案内

今号の表紙

習志野市
ハミングロードの桜

撮影：広報課

すべてのいのちの虹になりたい

病院の理念

患者さんに寄り添う医療を通して、地域住民の健康と福祉の増進に寄与します。

病院の基本方針

・患者さんの権利と意思を尊重し、ともに考え良質で効率的な医療の提供に努めます
・全ての職員はレベル向上のため研鑽し、最善のチーム医療を行います
・地域医療機関との連携を深めて、中核病院としての役割を果たします

患者さんの権利

・良質な医療を平等に受けることができます
・病状や治療内容について十分な説明を受ける事ができます
・自分の意志により治療を選択し決定することができます
・個人情報、プライバシーは保護されます
・自分の診療内容について開示を求めることができます

患者さんに守っていただくこと

・ご自身の健康や病気に関する情報を正確にお伝えください
・診療に協力し自ら治療に積極的に参加する気持ちをお持ちください
・病院の規則を守っていただきます

脳卒中センターの紹介

脳卒中を中心とした脳神経疾患の患者さんとそのご家族が満足できる入院生活を経て退院または転院すること、そしてその後のリハビリ・再発予防・社会生活にスムーズに移行できる仕組み作りを目指しています。

脳卒中センターを受診するには脳神経外科もしくは神経内科（紹介予約制）の外来で対応します。また平日の夜間（月曜日から木曜日）の救急にも対応しています。

脳卒中とは

脳卒中とは、脳梗塞・脳出血・くも膜下出血の総称であり、脳を養う血管のトラブル（詰まり・破裂）が原因です。読んで字のごとく急に発症します（卒然と中たる）。

わが国の死因の第4位、寝たきりになる原因の第1位です。命をとりとめても、手足の麻痺など重い後遺症が残ってしまうため、患者さんやご家族を苦しめ続けます。

急激な高齢化や、生活習慣病（高血圧や糖尿病など）の増加により、患者さんはますます増えると予測されています。

脳卒中の種類

脳卒中専門チームの意義

脳卒中治療は、いわゆる"治療"だけではなく、迅速な診断（放射線科）、急性期からのリハビリテーション（リハビリテーション科）、再発予防のための薬や生活習慣の指導（薬剤部、栄養科）、転院調整・退院後の福祉サービスの準備（医療ソーシャルワーカー、医療連携室）など、さまざまな職種が早い段階から関わらなければなりません。

このようにさまざまな職種が専門チームとして早期から関わることで、万一、脳卒中を発症しても、後遺症の影響が少なく自立した生活を送ることができる患者さんの割合が増えると数多く報告されており、「脳卒中治療ガイドライン」でも脳卒中専門チームを組織することは強く推奨されています。

当院では、このようなチームとしての横のつながりは既に機能していますが、改めて脳卒中センターとして病院内外に示すことで脳卒中治療体制をより明確にできると考え、センター立ち上げに至りました。

脳卒中専門チーム

スタッフ

医師

神経内科
上司　郁男（センター長）、牧野　隆宏

脳神経外科
中村　弘、杉山　健、藤川　厚、石井　公祥

コ・メディカルスタッフ

看護部（7名）、リハビリテーション科（1名）、薬剤部（1名）、放射線科（1名）、臨床栄養科（1名）、医療連携室（1名）、医療ソーシャルワーカー（2名）

脳卒中地域医療連携の重要性

脳卒中センターは、脳卒中治療の入り口に過ぎません。脳卒中の後遺症の影響が少なく自立した生活を目指すためには、早い時期から集中的にリハビリテーションをおこなう必要があります。これに特化しているのが回復期リハビリテーション病院です。

病状や重症度にもよりますが、脳卒中センターでの急性期治療は2週間ほどで完了します。その時点でスムーズに回復期リハビリテーションへ移行するためには、発症・入院直後から回復期リハビリテーション病院との転院調整を始める必要があります。

また、自宅退院後は再発予防の生活習慣管理は必須であり、かかりつけクリニックとの連携も必要です。

千葉県では「千葉県共用脳卒中地域医療連携パス」という共通の"治療の流れ"を用いています。これにより、急性期病院、回復期リハビリテーション病院、かかりつけクリニックが一つの"チーム"として患者さんに関わることができるようになっています。

脳卒中地域医療連携

患者相談窓口開設の紹介

平成27年12月より、患者相談窓口を1階玄関ロビー正面右側（案内図）に開設しました。通院や入院でご心配なことやお困りなこと、またはお気づきのことがありましたら、お気軽にお立ち寄りください。

相談内容

- 介護保険、障害者手帳、難病申請など福祉サービスについて
- 治療を継続するための経済的な問題について（無料低額診療を含む）
- 転院（療養型や回復期）や施設入所について
- 在宅療養に関して
- 外来、入院費請求内容について
- 支払い方法について
- お薬について
- セカンドオピニオン
- 地域の医療機関について
- 転院（急性期）転入について
- 医療安全や感染対策について
- 外来診療や入院治療について
- 誰に相談したらよいかわからない
- 当院の運営や職員に対するご意見・ご要望
- その他

相談内容に合わせて、福祉相談室・退院調整看護師・医事課・薬剤部・安全管理看護師・感染担当看護師・医療連携室・患者相談室が力を合わせてサポートさせていただきます。

また、患者さんにかわって患者さんの声を当院の各部署やスタッフに伝えるとともに、必要な情報を集めて患者さんの疑問にお答えします。さらに、患者さんへより質の高い医療サービスを提供できるように、患者さんの声をもとに各部署に対して、改善のために必要な取り組みについて提言していきます。ぜひ、皆様の声をお届けください（スタッフにお声をかけてください）。

患者さんへのお願い

1. 全ての患者さんに適正な治療環境が保たれるよう、安全性や静粛性などへの配慮にご協力ください。
2. 正当な理由なく医療者の指示にご協力いただけないこと、他の患者さんへの迷惑になる行為、医療者が適正な医療がおこなえない状況になるようなことはしないでください。
3. 病院が定める諸規則や、医療者からの指導にご協力をお願いいたします。

相談をご希望される方は、患者相談窓口申込み用紙に必要事項をご記入の上、お近くのスタッフ・看護師にお伝えいただくか、または患者相談窓口にお越しください。

患者相談窓口のご案内図

受付は外来診療日の8時30分～17時30分（個別相談は9時～16時）です

※相談内容に合わせて担当者が対応します。担当者がほかの対応中の場合には、相談日時を調整させていただくこともありますのでご了承ください。

手術棟増築工事の進捗状況　その3

当院では手術部門を中心とした診療体制強化を目的とし、平成27年10月より病院本棟北側にて手術棟（地下1階～地上3階建）の増築工事をおこなっています。現在は1階の内装工事が終了し、地上3階の立ち上り躯体工事をおこなっています。手術棟の竣工は平成28年10月の予定です。

また、手術棟竣工後の平成28年11月～平成29年5月の7ヶ月間で本棟の改修工事を予定しております。全工事期間は約2年半と長期にわたるプロジェクトとなります。

患者さんをはじめ皆さまには大変ご迷惑をおかけすることになりますが、何卒ご理解ご協力くださいますようお願い申し上げます。

事前採血

外来の採血の待ち時間解消のために、事前採血をお勧めしております。これは、次回診察日より前に採血し、診察日当日には採血なしで、直接診察が受けられるようにする方法です。詳しくは担当医にご相談ください。

糖尿病講座のご案内

お申し込み・お問い合わせは、内科外来まで

当院では、奇数月に糖尿病講座を開催しています。参加費は無料ですので、是非ご参加ください。
なお、人数に制限がありますので、準備の都合上、必ず事前に予約をお願いいたします。

5月の講座（第1回）

日　時　5月27日(金)　14:00～16:00
場　所　当院8階講堂
テーマ　糖尿病性神経障害
食事療法「その1」
薬物療法「その1」
日常生活の注意点「その1」

7月の講座（第2回）

日　時　7月22日(金)　14:00～16:00
場　所　当院8階講堂
テーマ　糖尿病性眼症
検査値の見方
薬物療法「その2」

なお、日時・内容は変更する場合がございます。

お知らせ　「済生会だより　ならしの」は病院ホームページからご覧になれます。

発　行／千葉県済生会習志野病院
〒275-8580 千葉県習志野市泉町1-1-1　TEL 047-473-1281（代）　FAX 047-478-6601
ホームページ　http://www.chiba-saiseikai.com